

# 令和6年度土佐町教育委員会の自己点検・評価シート

教育委員会制度は、首長から独立した合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体的教育行政事務を執行するものです。このため、事前に教育委員会が立てた基本方針にそって具体的な教育行政が執行されているかどうかについて、教育委員会自らがチェックする必要性が高いことから、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定により、以下の項目について、自己点検・評価を実施し、議会への報告とともに公表します。

大項目	中項目	小項目	点検・評価
1 教育委員会の活動及び管理・執行する事務	(1)教育委員会の会議の運営改善	①教育委員会会議の開催回数	実現度 ↑  → 重要度 ○8回開催した。 ○条例制定1件、条例改正3件、規則改正4件、要綱改正1件、要綱廃止1件であった。 ○令和7年8月に土佐町小中学校PTA役員との意見交換会を予定している。
		②教育委員会会議の運営上の工夫	実現度 ↑  → 重要度 ○8回の内、すべてが夜間開催であった。 ○教育委員会会議議題について事前周知のため、議題を前もって送付している。 ○会議の開催日時や議案等の情報をホームページに掲載している。
	(2)教育委員会の会議の公開、保護者や地域住民への情報発信	①会議録調整などの状況	実現度 ↑  → 重要度 ○会議録(議題に対する可否の結果等)を作成している。
		②会議録の公開、広報の状況	実現度 ↑  → 重要度 ○会議録(議題に対する可否の結果等)を作成し、ホームページ上で公開している。 ○次回会議日程及び議題は、ホームページ上で公表している。 ○事前に告知放送、LINEによる傍聴を呼びかけ、傍聴者数は合計で6名であった。
	(3)教育委員の研修及び自己研鑽	○研修会への参加状況	実現度 ↑  → 重要度 ○教育委員対象の研修会は、4回開催され参加した。 ○保育園、小中学校を半日単位で訪問し、授業(保育)参観と教職員との懇談会を実施した。 ○定例学校訪問の外に学校行事などへ訪問している。
	(4)教育委員会と首長の連携	○教育委員会と首長との意見交換会の実施	実現度 ↑  → 重要度 ○町長・副町長・教育委員・事務局等の出席のもとに教育行政施策及び子育て支援、保育園、小中学校、社会教育の現状について報告する、総合教育会議が開催された(1回)。会議の傍聴者は2名であった。
	(5)教育行政の基本方針や教職員研修の基本方針を定めること		実現度 ↑  → 重要度 ○教育行政方針策定審議にあわせて議論し、方針を定め、教職員研修を行った。
	(6)教育委員会規則及び規程を制定し、又は改廃すること		実現度 ↑  → 重要度 ○事務局案(事前送付)を元に審議決定している。 土佐町教科用図書調査委員会規則の改正、土佐町教育委員会事務局組織規則の改正、土佐町中学校通学用購入費補助金交付規則の一部改正、土佐町招致外国青年任用規則の改正
	(7)教育予算その他議会の議決を経るべき議案の原案を決定すること		実現度 ↑  → 重要度 ○教育方針に基づく施策は、予算に反映できている。
(8)教育行政相談担当者の設置及び公表		実現度 ↑  → 重要度 ○教育委員会で指定し、ホームページで公表している。(法第18条第8項)	
(9)教育委員会事務局(所管施設含む)の職員及び県費負担に係る教職員の人事の内申に関すること		実現度 ↑  → 重要度 ○土佐町の教育の現状に配慮した適材適所の人事異動の内申が来ている。 ○小中一貫教育推進教員、図書館活用型教育推進教員、中高連携教育推進教員の配置を受ける事が出来た。	
2 教育予算に基づく点検・評価	(1)教育委員会費(9-1-1)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○各協議会等が主催する研修会に参加した。
		R6 1,951 0 0 0 1,951 R5 2,191 0 0 0 2,191	
	(2)事務局費(9-1-2)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○スクールソーシャルワーカーを雇用し学校・家庭・児童・生徒との連携や信頼づくりに努めた。 ○嶺北高等学校に修学する土佐町に住所を有する生徒の保護者に対し教科書購入補助を行った。 ○高校や大学等の希望学生に対し、奨学金の貸し付けを行った。 ○学校運営協議会を4回開催した。
		R6 23,125 3,090 0 6,373 13,662 R5 61,996 3,963 0 6,373 51,660	
	(3)学力向上対策費(9-1-3)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○「ICT教育の充実」「基礎基本の定着」「英語教育の充実」「校内研修の充実」を進め、子どもの学力向上及び教員の指導力向上に取り組んだ。 ○校内研修を実施し、教職員の指導力向上に繋がっている。
		R6 6,583 368 0 0 6,215 R5 4,603 1,866 0 0 2,737	
	(4)外国青年招致事業費(9-1-4)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○小中学校に配置することで児童生徒との交流が深まるとともに、中学校英語授業及び小学校外国語活動に効果的であった。 ○定期的に保育園との交流を行い異文化の中で園児が楽しく遊ぶことができた。
		R6 4,147 0 0 0 4,147 R5 3,957 0 0 0 3,957	
	(5)小学校管理費(9-2-1)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○修繕箇所への早期対応など適切な施設管理ができた。
		R6 14,561 0 0 0 14,561 R5 13,628 0 0 943 12,685	
	(6)教育振興費(小学校)(9-2-2)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○土佐町教育行政方針に基づき、読書教育、特別支援教育の充実など特色ある学校運営がなされた。 ○保小中連携教育は順調に推進できた。 ○小中合同授業研究を推進することができた。 ○特別支援教育支援員を2名雇用し、特別支援学級担任の補助にあたっている。児童一人ひとりに応じたきめ細やかな対応が可能になったことに加え、担任の業務負担の軽減につながった。 ○町内の事業者講師を依頼して、小学校5年生は間伐体験や木工教室、6年生は自分たちが間伐した気を用いた赤ちゃん用おもちゃ制作をおこなっており、土佐町の主要産業である林業に対して関心を深めることができた。
		R6 39,177 2,702 0 0 36,475 R5 26,510 996 0 0 25,514	
	(7)中学校管理費(9-3-1)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○修繕箇所への早期対応など適切な施設管理ができた。
		R6 13,877 0 0 142 13,735 R5 33,118 0 0 132 32,986	
	(8)教育振興費(中学校)(9-3-2)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○土佐町教育行政方針に基づき、読書教育の充実など特色ある学校運営がなされた。保小中連携も順調に推進できた。 ○「総合的な学習の時間」で、地域について学ぶことが出来た。 ○美術の教科支援員を1名雇用することで、より専門的な授業を受けることが可能になった ○自転車通学の対象地区に居住する生徒には自転車購入費用を補助している。 ○在校生がヘルメットを買い替える場合の補助金を交付した。耐久力が落ちたヘルメットを買い替えることで、生徒の通学時の安全につながった。
		R6 22,221 27 0 0 22,194 R5 25,921 24 0 0 25,897	
	(9)社会教育総務費(9-4-1)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○前年度に引き続き各団体に対する補助金の適正な執行を行った。 ○郷土学習センターの管理運営を委託し、ギャラリーを活用した企画展や講座を開催した。企画展実績(企画展204回、入場者数5385名、開館日数282日)
R6 8,991 0 0 5 8,986 R5 23,951 0 0 5 23,946			
(10)文化財保護費(9-4-2)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○文化財保護審議委員会を中心に、定期巡視を行った。 ○県及び中央地区文化財保護連絡協議会研修会に参加した。	
	R6 447 0 0 0 447 R5 4,787 445 0 0 4,342		
(11)少年育成センター運営費(9-4-3)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○児童生徒の安全安心な登下校のため巡回パトロール及び街頭指導を継続する。 ○健全育成に努めた結果、補導件数は0であった。	
	R6 127 0 0 0 127 R5 127 0 0 0 127		
(12)町立図書館費(9-4-4)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○図書館便りの発行など適切な図書館運営がされている。 ○週休日・祝日も開館(毎週火曜日、年末年始は休館、開館時間午前9時～午後5時)し、図書館利用者のサービス向上に努めた。 ○図書の新着冊数は年々増加しており、利用が増えている。 ○図書館の来館者数を増やすべく、コンサートなどのイベントを開催している。 ○新図書館開館に向けた協議が始まった。	
	R6 12,925 0 0 0 12,925 R5 10,691 0 0 0 10,691		
(13)学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進事業(9-4-5)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○地域で子どもを守り育てる仕組み作りにつながっている。又、地域の方が学校に入ることにより、児童生徒、地域の方との交流ができ、安全な学校環境をつくることができた。 ○学校からの協力依頼が明確にあるので、学校支援がスムーズに行えた。 ○放課後子ども教室申込児童は130名、一日平均約60名、長期休暇約40名の児童の参加があったが、平均6名の学校応援団員の協力を実施できている。 ○学校応援団推進本部実行委員会を2回開催し、学校応援の内容・課題等について協議し充実が繋がっている。 ○事業成果のパンフレットを作成し普及啓発、広報活動を行った。	
	R6 14,814 11,437 0 0 3,377 R5 13,396 8,567 0 0 4,829		
(14)保健体育総務費(9-5-1)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○給食センターにより、安全安心な学校給食に取り組んでいる。	
	R6 41,988 0 10,000 0 31,988 R5 41,459 0 11,000 0 30,459		
(15)体育施設費(9-5-2)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○社会体育施設の利用頻度は高く、新たな体育団体も増加している。 ○町民プールは石原、地蔵寺、相川、松ヶ丘、土佐町小中学校の5カ所を開放した。 ○体育館等の管理委託を相川スポーツクラブに委託し、地域に寄り添った管理運営を進めた。	
	R6 11,144 0 0 0 11,144 R5 12,696 0 0 0 12,696		
(16)保育所費(3-2-1)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○保育理念、保育方針、保育目標に基づき保育を行い、職員同士の声掛けや園内研修の充実により、目指す子ども像に向けて共通認識を持って取り組むことができた。 ○保育園と教育委員会の連携がとれ、個々のケースごとへの対応を行った。 ○年長児から小学校1年生の架け橋期に円滑な接続・連携を実施するため、検討委員会を中心に「架け橋期のカリキュラム」を策定した。	
	R6 69,032 9,595 0 1,366 58,071 R5 143,618 10,223 0 1,366 132,029		
(17)子育て支援費(3-2-6)	最終予算額 国・県支出金 地方債 その他 一般財源	実現度 ↑  → 重要度 ○乳児健診等の機会を利用してポット広場への誘いかけを常に行っており、親子の触れ合いや保護者同士の交流の場となっている。 ○ポット広場を発行し、すべての家庭が利用できるよう啓発もしており、子どもたちがより豊かに育っている支援を目指し、取り組みを進めている。 ○みづは保育園でのポット広場(体験保育)は、次年度の入園を考えている保護者にとって、好評となっている。 ○ポット広場の週末開放(9:30～14:30)を月に1度実施し、延べ約150名の親子の利用があった。	
	R6 13,332 2,310 0 0 11,022 R5 7,094 5,486 0 0 1,608		

(18) 保育園建設事業費 (3-2-8)	最終予算額	国・県支出金	地方債	その他	一般財源	実現度 ↑ → 重要度	● ○仮園舎が完成し、現園舎から引っ越しを行った。 ○新園舎新築工事の発注を行った。完成は令和8年10月を予定している。 ○新園舎が完成した後に仮園舎を土佐町立図書館としてリニューアルオープンする予定。	
	R6	125,897	0	122,800	0			3,097
	R5	351,352	18,000	275,100	0			58,252

点検・評価に関する学識経験者からの意見 ◆山本健慈（学校法人 大阪観光大学理事長）土佐町教育振興アドバイザー

○教育委員会の開催すべて（8回）および総合教育会議が夜間開催であったことを評価したい。しかし傍聴者は依然として少ないようである。教育委員の業務を理解してもらうために、年一度ぐらい、定例ではないグループディスカッション、たとえば教育委員が課題認識を表明し、参加した住民（子どもも含めて）も、自身の課題認識を述べるといった地域の課題を語り合う場の設定を提案する。

○教育委員の研修及び自己研鑽において、学校訪問、教職員との懇談がなされていることは、貴重なく研修だと評価できる。昨年、一昨年も指摘したが、さらに子どもの意見を聞く機会をく研修として位置付けることを望みたい。大人が真剣に地域の子ども・教育のことを考えているということに接すること自体が、子どもにとって成人となっていく過程の学習としても意味あることである。

○「土佐町の教育の現状に配慮した適材適所の人事異動の内申が出来ている」としていることは、地域に即した学校教育にとって重要なことである。その際に小さい自治体の優位性を発揮し、町の教育行政方針の策定の際に、各教育委員、教育委員会、および事務局は、子ども、保護者・住民との意見交換、学校・園の職員との意見交換という、立場の異なる人々の共同学習（これこそ地域課題を学び合う社会教育である）を重視されたい。この意見交換（共同学習）の積み重ねによって、住民が望む学校像、地域の教育の姿を、教育委員のイニシアティブで形成し、実現むけた施策として、地域住民（子どもも含めて）に明示されることによって、「適材適所」の内容が共有されることが望ましい。

○保育園建て替え、新しい図書館整備の課題は進んでいるようであるが、完成までの過程を住民参加、行政と住民の協働によって取り組んでもらいたい。

○教員の過重労働が社会的問題になっており、中教審答申等の動きがある。中教審が示した方向で土佐町での課題が解決するのか、教育委員（会）と学校の共同作業で確認していただきたい。それを町民全体で学習、議論するイニシアティブを教育委員会にはとってもらいたい。これによって教職員の負担の現状が土佐町民の理解となり、その理解が教職員への激励になると思われる。

○「図書の新し出し冊数は年々増加しており、利用が増えている」ということに注目したい。そして自己評価作業においては、事実だけではなく、「なぜ増えたのか」という分析を加える必要がある。それは担当者（最前線の現場を知る）の感想でもよい。

○「新図書館開館に向けた協議が始まった」ということにも注目する。そして前年度コメントの「保育園建て替え、新しい図書館整備の課題は進んでいるようであるが、完成までの過程を住民参加、行政と住民の協働によって取り組んでもらいたい。」を重ねて提言したい。なおこれについては私が長く関与する大阪府熊取町の図書館30周年記念誌によせた文章があるので、ご参照願いたい。

○教育委員会からの提供資料に「第2期土佐町子ども・子育て支援事業計画」がある。これは2020年度から2024年度までの5ヶ年計画である。政府においては、2023年4月「こども基本法」の施行にともない、新たに「こども計画」の策定を求めている。小さな自治体においては、こうした動向をフォローすることは困難であり、かならずしも必要なことでもない。しかし、行政・住民がともに、こうした政策動向を共有し、「すぐに後継計画の策定をスタートさせない」とすれば、では土佐町ではどうするかについての住民との公開の協議をすることを提言したい。私は関与する大阪府熊取町では、土佐町同様第2期計画が24年度で終了することにともない、2025年度より始まる第3期計画を「こども計画」として策定した。その際に、計画を策定することだけを目的にせず、住民参加で課題を共有し、行政、住民、事業体で問題解決を探る議論（学習）をすることに注力した。そこには40代未満（「こども」概念に包摂される「わかもの」）の役員職員の「特別部会」を設置し、計画策定への参加をしていただいた。この計画策定にあたっての所感を資料として添付する。

○こどもの数の急減のなかで保育や学校の在り方が問われている。土佐町でも嶺北高校進学者への補助も制度化されている。この度の保育園舎の建て替えにあたって、保育内容についても本格的な検討をしていただきたいと思う。いま過疎の地域の保育園で「里山保育」という言葉で表現される、新たな実践が生まれている。先日私が訪ねて島根県益田市の真砂保育園は、園児8人。こどもたちは、日々地域散歩、地域探索を自分で考え活動している。同じ地域の（ここでは、保育園、小学校、公民館、診療所が一体の施設となっている）の公民館長によれば、「日々地域歩きをしている園児が、地域の高齢者の近況を一番よく知っている」とのことである。この実践に長く関与している宮里六郎教授によれば「園児は小さな民生委員」という。こうした地域の資源、財産、環境を最大限生かした保育内容の追求とあわせて園舎づくりをすすめていただきたい。（参考文献 『超少子社会 保育の今と未来—過疎地・里山からの発信—』（過疎地の保育・福祉研究会、櫻井慶一、西垣美穂子、宮里六郎 編 新読書社。『里山の保育・・・過疎地が輝くもうひとつの保育』宮里六郎等著 ひとなる書房）